

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年6月17日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0871900460		
法人名	有限会社 幸		
事業所名	グループホーム きらり		
所在地	〒300-1217 茨城県牛久市さくら台3-34-10 (電話) 029-878-3911		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成19年11月30日	評価確定日	平成20年6月17日

【情報提供票より】 ( 19年11月12日事業所記入 )

### (1) 組織概要

開設年月日	平成16年7月20日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤 6人, 非常勤 13人, 常勤換算	12.7人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋平屋	造り
	1階建ての	～ 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	51,000 円	その他の経費(月額)	1,800 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 450 円
	夕食	450 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

### (4) 利用者の概要 (平成19年11月4日現在)

利用者人数	18 名	男性 4 名	女性 14 名
要介護1	2名	要介護2	8名
要介護3	4名	要介護4	2名
要介護5	2名	要支援2	
年齢	平均 86 歳	最低 75 歳	最高 97 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	つくば双愛病院
---------	---------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

職員は基本理念を認識し、利用者の過去、現在、そして未来を通して、地域の中で安心して暮らしが出来るようサービスの質の向上に前向きに取り組んでいる。  
個別の記録や申し送りノートなどにより、利用者のケアを統一している。  
また、終末期の利用者をご家族に代わり、職員が一丸となって看取り、遺品を宝物として大切に保存している。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 評価の結果で課題となった改善計画を作成し、改善するなどサービスの向上に努めている。
	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4) 外部評価の受審にあたり、職員全員で自己評価を行っている。 また、評価の結果で課題となった事項について改善計画を作成し、改善するなど、サービスの向上に努めている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6) 地域の理解や支援が得られるよう、運営推進会議開催に先立ち、ホームの取組み内容を報告し、その後、検討事項について意見交換を行っている。 定期的に会議を開催することにより、委員から活発な意見や質問、要望などが交わされる会議となることを期待する。 市の介護相談員を受け入れており、相談や助言・指導を受けている。 介護相談員ばかりでなく、ホームのケアサービスへの取組みや、ボランティアの受け入れなど、市の担当者と連携を図る取組みを期待する。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族訪問時に近況を伝えるなど、家族の要望を聞くよう心がけている。 身体的に何らかの変化や問題が発生した場合、直接電話での説明や報告をしている。 毎月の請求書と金銭出納帳のコピー送付時に意見用紙を同封し、出された意見や要望をミーティングで話し合い、サービスに反映している。 家族に運営推進会議への参加を呼びかけるなど、ホームの様子等が外部の人たちにも伝わるよう工夫している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 運営推進会議においてホームの内容を紹介したり、ホームと地域の人々が支え合う関係づくりについて話し合うなど、交流を図っている。 また、高校生の介護実習を受け入れている。 今後、小学生の社会科見学・体験学習やボランティアなどの受け入れを通して交流が深まる事を期待する。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で孤立することなく安心して暮らし続けられること、さらには、利用者の過去・現在・未来を尊重し、穏やかな暮らしができることをホームの理念に掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	社員ミーティングで地域密着型サービスについて取り上げ、理念の内容と照らし合わせて話し合うとともに、具体的なケアについて意見の統一を図っている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議においてホームの内容を紹介したり、ホームと地域の人々が支え合う関係づくりについて話し合うなど、交流を図っている。 また、高校生の介護実習を受け入れている。	○	小学生の社会科見学・体験学習やボランティアなどの受け入れを通して交流が深まることを期待する。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の受審にあたり、職員全員で自己評価を行っている。 また、評価の結果で課題となった事項について改善計画を作成し、改善するなどサービスの向上に努めている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の理解や支援が得られるよう、運営推進会議開催に先立ちホームの取り組み内容を報告し、その後、検討事項について意見交換を行っている。	○	定期的に会議を開催することにより、委員から活発な意見や質問、要望などが交わされる会議となることを期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護相談員を受け入れており、相談や助言・指導を受けている。	○	介護相談員ばかりでなく、ホームのケアサービスへの取り組みや、ボランティアの受け入れなど、市の担当者と連携を図る取り組みを期待する。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族訪問時に近況を伝えるなど、家族の要望を聞くよう心がけている。 身体的に何らかの変化や問題が発生した場合、直接電話での説明や報告をしている。 毎月の請求書送付時に、金銭出納のコピーを同封している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	請求書送付時に意見用紙を同封しており、出された意見や要望をミーティングで話し合い、サービスに反映している。 家族に運営推進会議の参加を呼びかけるなど、ホームの様子等が外部の人たちにも伝わるよう工夫している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者が安心して暮らすため、馴染みの職員が対応することが大切であると理解している。 職員の異動があった場合は、利用者が理解できるようきちんと説明するとともに、職員が挨拶をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人手不足から職員を外部研修に参加させるには至っていない。	○	外部研修の参加ばかりでなく、ホーム内の事例検討を行うなど、職員の介護等の資質を向上するための取り組みを期待する。 また、勤務に支障のない程度に外部研修計画を企画・実践することを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームと見学会や意見交換を行っており、サービスの向上やケアの充実につなげている。	○	職員が交流会へ参加できるよう調整するなど、ホームの質の向上にむけた更なる取り組みを期待する。
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前の話し合いや見学時に、可能な限り本人・家族と一緒に説明し、体験入居後、納得した上で入居する方もいる。 やむを得ずすぐ利用する場合でも、家族の協力を得ながら安心を得られるよう工夫している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、人生の先輩である利用者には生活の技や文化を教えてもらうなど、お互いに助け合い支え合う関係を築いている。 また、利用者の現状を把握したうえで声かけや場面設定をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活や会話や本人の行動を見て、今までの生活歴を把握するよう努めている。 意志疎通が困難な場合は、家族やこれまでのことをよく知っている人から情報を得るようにしている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者が自分らしく暮らせる介護計画を作成するため、アセスメント用紙を基に本人の希望を聞き、家族に意見用紙を送付して希望を取っている。 書類を基に職員会議で取り上げ、意見を出し合いながら介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のユニット会議で、利用者の状況について介護計画と照らし合わせながら話し合っている。 また、日々の記録を基に、利用者の状態の変化や本人・家族の要望に応じた見直しを行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携の充実により、看護師の定期的訪問や必要な処置など、気楽に相談し対応している。 また、利用者の日々変化する状況や重度化する状況など、臨機応変かつ柔軟なサービスを提供している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームと契約している総合病院をかかりつけ医とすることに対し、本人やご家族から同意を得ており、利用者が外来受診する際は職員が同行している。 また、往診契約を結んでいる診療科の受診に関しては、受診利用者をまとめて往診してもらうなど、複数の医療機関と連携して対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医師の指示のもと、利用者の身体状況を看護師がきちんと判断し、状態の把握に努めている。 本人や家族の要望に応じて、ホームで終末期を過ごせる体制づくりに取り組んでいる。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護に関しては、職員の採用契約時・退職時に契約書を交わし、情報漏洩防止に努めている。 また、記録類の保管・管理は事務室で行っている。 職員は利用者と接するにあたり、利用者の誇りやプライバシーを損ねる言葉かけはしない事を心がけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの体調や思い、ペースを配慮し、本人の気持ちを尊重しながら柔軟に対応している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立から食材まで業者に委託しているが、味付けは利用者の好みに合わせて調節している。 月に1度、利用者や職員の意見を基にしたメニューの日を設けており、好みの食事を提供している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人や家族から利用者一人ひとりの好みや習慣・希望を聴き、その人に合った入浴支援を行っている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴を参考に利用者一人ひとりの習慣・希望・有する力を踏まえ、犬の世話や種まきなどの場面づくりをしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の状態や有する力・希望を取り入れ、その時々状況に合わせて庭の散歩など外出支援に取り組んでいる。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は夜間以外は施錠していない。 職員は利用者の状況を把握しており、外出しそうな様子を察知した時は止めるのではなく、声かけしながら一緒に付いて行くなど、安全と自由に配慮した支援をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害訓練計画書を作成し消防署と連携して、年2回職員と利用者の避難訓練を実施しているが、地域の協力体制や、災害発生時の対策としての非常食糧水等を備蓄するには至っていない。	○	運営推進会議では、災害訓練に地域の人々への参加を呼びかけたり、非常用食糧を使った献立による試食会をするなどの工夫を期待する。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を毎日チェック表に記入し、職員は情報を共有している。 献立は業者が作成しており、栄養バランスや摂取カロリーに配慮している。 また、利用者の嗜好を把握し、業者と相談している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者にとって居心地の良い場所・安心できる場所として、和室には仮眠用品を準備している。 また、音や臭い・空気の流れに配慮するとともに、クリスマスの飾り付けや自然にある草花を季節ごとにさりげなく飾るなど、五感を刺激して自然な暮らしの場を整えている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は家族の協力を得て、利用者の好みのもや愛着のあるものを持ち込み、その人らしい配置となっている。 カーテンやカーペットなどは、好みの色使いにするなど、利用者は居心地良く過ごしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。